

# 総合人間科学系 全学教育センター

## 「鳥の目」と「虫の目」： 環境問題への複眼的アプローチ

授業：「環境問題の社会学入門」では、環境問題や環境運動に関する研究領域から解説します。「環境共存の社会学入門」では、自然環境と調和して共存してきた社会の特徴を探究します。他に「信州生態資源ゼミ」や「モノを辿るアプローチゼミ」など開講中。

研究分野：環境社会学、環境人類学

主要著作：『熱帯雨林のポリティカル・エコロジー』（昭和堂、2012年）、「環境社会学の視点からみる世界史—先住者の生活戦略から探る持続可能な社会」（『岩波講座 世界歴史1 世界史とは何か』、2021年）「熱帯材と日本人—一足下に熱帯雨林を踏み続けて」（『環境社会学講座1：なぜ公害は続くのか』新泉社、2023年）

人文・社会・環境科学  
教育部門

研究から広がる未来



金沢 謙太郎 教授

上田高校、東京外国語大学  
ヒンディー語学科、筑波大学  
大学院環境科学研究科修  
了後、東京大学大学院総合  
文化研究科国際社会科学専  
攻にて博士号（学術）取得。  
神戸女学院大学准教授を経  
て、2008年秋信大に着任。

衛星画像や統計資料を使って「鳥の目」で眺望する作業は重要です。しかし、それだけでは現場で苦しみもがいている人びとの顔は見えません。地面を這いながらフィールドを見る「虫の目」が必要になります。問題の現場と机上を往復しながら見えてくるものを大事にしたいです。

研究にとどまらず、学生のうちは何事も失敗を恐れず、どんどんチャレンジしてください。

卒業後の未来像

ソニー・マレーシアは「卒業証書をもって熱帯雨林へ」とリクルート広告で呼びかけました。私からいわせれば「卒業までに熱帯雨林へ」です。これまで関わった学生は、研究者や公務員、環境関連企業などで活躍しています。



「信州生態資源ゼミ」では、地域の湧水群やワサビ畑を訪れて、体感的に学ぶ機会を設けています。上の写真はいずれも安曇野市穂高の大王わさび農場（同農場百年記念館長の濱重俊氏の案内による）。



アジアの香木に関する研究（フィールドワーク）も行っています。写真左はジャクダン（白檀）の栽培地（インド、カルナータカ州コラール地区の農家とともに）。

写真右はジンコウ（沈香）の生育地（マレーシア、サラワク州バラム河上流域、先住民族の案内による）。